第一線で働くプロにクローズアップ！ 気になるあの仕事について調べてみました。

シゴト図鑑 vol.42

言語聴覚士

「話す」「聞く」「食べる」が発達上の問題でできなかったり、病気によってできなくなったりすることがある。山ほど生じる困り事。小児から高齢者まで、自分らしい豊かな人生を送ることができるよう、対処法を見つけ、支援や訓練などを通じて症状の改善を図る。そんなスペシャリストの仕事を取材した。

明和記念病院（大分市）
訪問リハビリテーション科
田仲（たなか）　紗和（さわ）さん(25)

PROFILE／
大分市出身。大分東明高卒業後、大分リハビリテーション専門学校言語聴覚士科で３年間学び、国家試験に合格。明和記念病院に就職し、現在４年目。病棟勤務を経て2022年春から現職。３姉妹の真ん中で、子どもの頃はけがが絶えなかったとか。

覚　悟
自分の関わり方次第でその子の人生が変わるほどの重責を担う、という自覚を持ち、一人一人と向き合っている。

やりがい
訪問することで利用者さんの不安が少しでも解消し、将来への「光」を見つけてもらったとき、頑張ったかいがあったと思う。

後輩へのメッセージ
発達障害や吃音（きつおん）で苦しんでいる子どもたちを支えられる、やりがいのある仕事。本人だけでなく保護者らをも笑顔にできる。

成　長
たくさんの利用者さんと親しく会話できるよう、幅広い分野に興味を持つようになった。家族から「社会性が身に付いてきた」と褒められる。

気分転換
高校、大学と頑張ったテニス。異業種の友人らとサークルをつくり、今も練習。月に１～２回、社会人の大会に出場している。

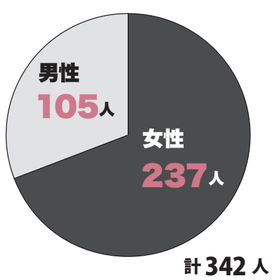
気分転換
時間が取れれば、大分市内外のカフェ巡り。コーヒー、ケーキをおやつにエッセー本などを読むのが、至福のひととき。

大分こども療育センター（大分市）
主任 武生（たけお）　脩司（しゅうじ）さん(27)

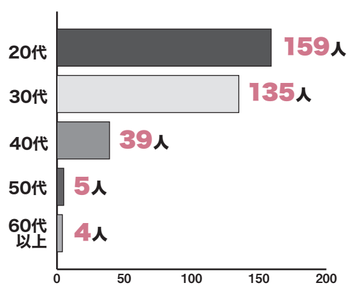
PROFILE／
佐伯市出身。楊志館高調理科を卒業後、九州保健福祉大保健科学部言語聴覚療法学科（現・臨床心理学部臨床心理学科、言語聴覚コース＝延岡市）で４年間学び、国家試験に合格。今の職場は６年目。中学時代、２歳上の姉の影響で菓子作りにはまっていた。

データで見る県内の言語聴覚士（県言語聴覚士協会調べ。2022.12.1現在）

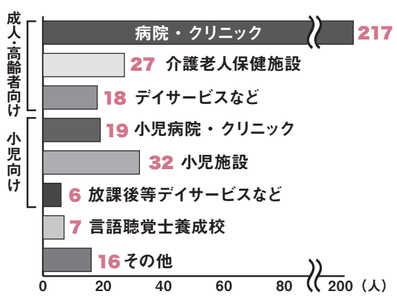
男女比



年齢別人数



活動領域別人数



ワタシたちが言語聴覚士になった理由。

Tanaka Sawa

高校卒業前、なりたい職業が見つからなかった。母から「言語聴覚士の学校があるよ」と教えられ、高校と同じ学校法人が経営する専門学校の見学会に参加した。

思わぬ出合い。喉頭がんで声帯を失い、小６の時に他界した父が使っていた発声補助器具があった。父の思い出と結び付き、この道具を使う言語聴覚士への道が見えた。まるで父が導いてくれた縁のように感じた。

専門学校では授業はもちろん、国家試験対策も想像以上にシビアだった。１年からグループ学習を始め、３年になるとペアで過去に出題された問題に取り組んだ。国家試験は１回で無事合格し、母に涙の報告。試験勉強が進まず母にあたったこともあっただけに心から感謝した。

卒業後、療養型の病院に就職。病棟に配属され、常に患者の気持ちに寄り添い、不安やコンプレックスを解消できるよう努めた。患者の多くは脳梗塞の後遺症やパーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症（ＡＬＳ）などによる、寝たきりの患者。うまく言葉が出なかったり、のみ込むのが困難な嚥下（えんげ）障害に苦しんでいたり、時にはみとることもあった。

本年度、仕事の幅を広げるために、自ら望んで訪問リハビリテーションの担当となった。利用者によって訪問頻度は異なるが、１人で１日に４～５軒回ることも。病棟経験を基に、まずは利用者や家族との信頼関係を築くところから始めた。「あなたが来ると楽しいわ」と言われることに、何よりの喜びを感じている。

パティシエになりたいと高校の調理科に進んだが「向いてない」と思った。部活動で打ち込んだテニスを生かそうと、体育教師を目指せる大学を探した。大学案内でたまたま見かけた「言語聴覚士」の資格。部活顧問の勧めもあり、興味が湧いた。

同時期、支援学校の教師をしていた母の勧めで、ボランティア活動に参加。発達障害児の母親から「佐伯には子どもの療育に詳しい言語聴覚士がおらず、大分市まで通っている」と聞いた。「自分が佐伯で第１号になる！」。言語聴覚士を養成する四年制大学への進学を決意した。

子どもの療育に重点を置いて学べそうなことと、テニスを続けられることが大学選びの決め手に。４年次最後の半年間は、国家試験対策の勉強に集中した。同級生との質疑応答など、日曜以外のほぼ毎日、朝から晩まで勉強し合格できた。

数少ない県内の小児療育施設の中から、母の知り合いの医師がいたこと、女性が多い業界の中でも男性の言語聴覚士の先輩がいることから、今の職場を選んだ。さまざまなタイプの子どもと接するうち、発声の訓練だけでなく、両親や祖父母の接し方などその子を取り巻く環境の全てを把握し、支援していく大切さを学んだ。

当初目指した佐伯での勤務ではないものの、今の職場でのやりがいは大きい。「県内どこでも同程度の療育支援を受けられるよう仲間を増やし、地域全体で発達障害の子どもさんらを支えていきたい」。新たな目標が生まれた。

Takeo Shuji

言語聴覚士になるには…

「国家試験」に合格すること。

高校を卒業後、言語聴覚士を養成する四年制大学または専門学校（３～４年制）に入学するケースが多い。言語・コミュニケーション行動を支える学科などの基礎科目と専門科目、臨床実習などを通じ、知識や技能を身に付ける。卒業すると受験資格が得られる。

一般の四年制大学の卒業者でも、養成課程のある専門学校で２年間学び、卒業すれば受験可能。いずれの場合も卒業見込みを含む。

国家試験は毎年２月にあり、合格率は６～７割程度。先に挙げた教育機関では国家試験対策も行われている。合格し免許証の交付を受けた後は即戦力として、医療や福祉などさまざまな分野でスキルを磨き、キャリアを積んでいくことになる。

目指す人へアドバイス

大分リハビリテーション専門学校（大分市）
言語聴覚士科学科長
平岡　賢さん(52)

言語聴覚士は1997年に国家資格となった、比較的新しい職業です。子どもからお年寄りまで幅広い年代を対象に、うまく話せない、よく聞こえない、うまく食べられない人たちに、検査や訓練、助言といった支援を行います。

かつては高齢者を対象にした仕事がメインでしたが、数年前からは子どもの療育施設や放課後等デイサービスなどが急増し、人材不足の状況が続いています。「先輩」がいない職場もあり、パイオニア精神にあふれている人にとっても絶好の機会と言えるでしょう。

人と接することが好きであれば大丈夫。仮に人見知りでも、コミュニケーション能力は経験を積みながら身に付いてくるものなので心配はいりません。性差を問わず活躍でき、筋力を必要としないため、女性に人気が高いです。結婚や出産後も続けやすいのが大きな魅力とも言えます。

「最後まで口から物を食べたい」「人生を終えるときに家族にお礼を言いたい」など患者さんの切実な思いに寄り添いながら、徐々に改善されていく患者さんや家族の笑顔に接したとき、何物にも代え難いやりがいや喜び、充実感を味わえる仕事です。

活躍する分野

医療
病院やリハビリテーションセンターなどで勤務。高次脳機能障害のため失語症や記憶障害などのある患者に、発声や発語、摂食や嚥下（えんげ）の訓練を行い、社会生活への復帰を手助けする。

福祉
高齢者施設や、訪問リハビリテーションなどの居宅サービスが仕事の場。利用者が自分の思いを言葉にすることや、食べ物ののみ込みがうまくできるよう、さまざまな訓練を行う。家族の相談にも乗る。

保健
保健所などで１歳半健診や３歳児健診などに加わり、子どもの発達などをチェック。現場の評価や指導に対し、助言や支援を行う。

教育
小児療育施設や特別支援学校などで、言葉が遅れている子に言葉を引き出す訓練をしたり、子どもを取り巻く環境を整えたりする。